第37回健康寿命ネットワーク（REVES）国際会議（REVES2026）

３月11～13日に，上智大学において第37回健康寿命ネットワーク（REVES）国際会議が開催された．この会議はほぼ毎年１回開催されており，健康寿命を研究している世界の研究者が一同に会している．今回は会議の開催直前に中東で情勢変化があったが，16か国から87名の人口学・公衆衛生学・疫学分野における専門家が参加し期間中に口頭報告35本，ポスター報告約20本の報告が行われた．また初日の午後には，近藤克則教授（千葉大学）による "Social Participation as a Key Determinant of Health Expectancy" と題した記念講演が行われた．本会議の口頭発表は同時並行のセッションがないために全ての報告を聴取可能である点が大きな特徴となっている．

当研究所からは，林玲子（所長），岩澤美帆（人口動向研究部長）と筆者が参加した．また林所長と別府は今回の現地運営委員会のメンバーを務めた．

各報告は健康寿命に限らず健康と死亡に関して幅広く行われた．いずれの報告もよく練られており，また限られた時間ながら質疑も活発に行われるなど，本会議への参加は大変に有意義であった．

次回は2027年５月にスペイン・ビルバオにて開催される予定である．　（別府志海　記）

日本地理学会2026年春季学術大会

日本地理学会2026年春季学術大会は，３月26日（木）～３月28日（土）に東京都千代田区の法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催された．

本学会大会の口頭発表では「人口・行動」とした区分があり，以下の８件の報告があった．同区分における報告数は昨年の秋季学術大会の３件から大きく増加した．報告テーマは外国人を含む移住者，結婚や就職に関する人口移動の過去と現在の差異，人口移動の統計的要因分析，GIS を用いた分析とモデル開発からなり，一定のまとまりがみられた．これらの報告のみから直ちに地理学における人口に関する研究の主流を見出すことは難しいが，現在の研究の対象や関心をある程度反映しているとは言えよう．こうした研究動向を把握するためにも，積極的に学会へ参加する必要を強く認識した．

また，「人口・行動」の区分以外の口頭発表やポスター発表などにおいても，人口に関する研究発表が散見されたが，紙幅の関係で割愛する．なお，本大会の発表要旨は，大会終了後に下記にて公開されている
（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ajg/2026s/0/_contents/-char/ja）．

「外資系製造業の立地に伴う熊本県における台湾出身者の移住と生活実態」
……呉　冠霆（熊本大・院）
「来日中国人留学生の地理的軌跡と社会的定着」……小野寺　淳（横浜市立大）
「移住後の経過年数による地域交流様式の差異―八丈島移住者の横断的分析」
……小原満春（沖縄国際大）
「結婚に関わる人口移動と人口の地域分布」
……貴志匡博・中川雅貴・清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）
「高卒労働市場に組織的求人システムが果たした役割―西南九州から中京圏への女子就職者を例に」
……山口泰史（帝京大）・松山薫（武庫川女子大）
「地域間人口移動の変化要因の分解―構成効果と行動効果」
……小坪将輝・中谷友樹（東北大）